

道

2018年2月



備中松山城

「ぼけてしもうた」「体が思うように動かんし、あちこち痛い」「死にたい」。九〇歳のふさ子さん（仮名）は、ケアマネの僕の顔を見るたびに「はよう迎えが来んかなあ」と話します。「なんもできん」「迷惑をかけるだけじゃ」「生きとつてもしようがねえ」とも言います。▼「何もできない」「役に立たない」「迷惑をかける」人は「生きる意味がない」のでしょうか。そう思っている人が僕の周りに少なくありません。▼哲学者の鷲田清一さんは、たこ八郎（昭和のコメディアンで元ボクサー）のお地藏様に刻まれたことば「めいわくかけてありがとう」を引いて、「迷惑かけずに生きられる人なんていない」と言いきります。そして、「成長」「生産」「効率」「速度」「できる」「役に立つ」が重くみられる社会のなかで、「若い」が「無用」な「お荷物」で「惨めな存在」としてイメージされている現実を見つめます。そのうえで「いのちの本質を生産性に見る見方」から「外に出る」必要を説きます。「できる」「できない」ではなく、「『ただい』というだけで人の存在には意味があるということがあたりまえ」な社会を、と。（『若い空白』『へ弱さ』のちから』などより）▼ふさ子さん、あなたにとって僕はこういう存在でしょうか。ただのケアマネでも、あなたのこと気がなくなってしようがないケアマネです。僕の心の中にちゃんとあなたが居ます。ふさ子さんの心の片隅にでも僕が居てくれたらいいな。たまにはちょっとでも思い出してくれたらいいな。今度、来月のカレンダーを持って伺いますね。じゃ、またその時に。

〒710-1301

岡山県倉敷市真備町箭田 5188

090-5366-1497

michi-care@outlook.jp

<https://michi-care.jimdo.com/>



林道也

遠田 椋の木

